



新たに施設を整備し、リサイクル分別収集が7種類11品目に拡充されるみやこ広域リサイクルセンター（宮古地区広域行政組合）

12月定例会は、12月5日から7日まで3日間の会期で開かれました。一般質問（5ページ13ページに掲載）には10人が登壇し、産業振興やデジタル放送対策、小学校統廃合問題など幅広く町政について質問。町からは、宮古地区広域行政組合規約の一部改正に関する議案、山田町放課後児童クラブ条例の一部改正案や補正予算など、議案13件が提案され、審議の結果すべて原案どおり可決されました。最終日には、採択された請願に伴う議員発議の意見書を可決し、3日間の会期を閉じました。

リサイクル分別収集の対象物

7種類11品目に拡充

町では、廃棄物の減量化を推進するため、宮古地区広域行政組合と連携しながら取り組んできました。これをさらに促進するため、新たにリサイクル施設を整備することになり、このため、宮古地区広域行政組合（別表1）など規約の一部を改正する議案が提案され、原案どおり可決されました。

最終処分場が足りなくなる事態も発生しています。このことから、ここ数年は廃棄物の発生を抑制するため、全国的に資源循環型のリサイクルに取り組み、廃棄物の減量化に努めています。

宮古地域での取り組み

これに伴い、これまで缶・ビン類など3種類6品目だった分別対象が、平成21年4月から7種類11品目に拡充されることになりました。

廃棄物処理問題の現状

廃棄物処理の問題については、全国各地で非常に大きな課題となっています。高度成長期以後、これまで「大量生産・大量消費・大量廃棄」が当然のように行われてきました。このことで、廃棄物の量は増大の一途をたどり、他の自治体では廃棄物を埋め立てる最

も廃棄物の減量化に取り組み、当初計画ではリサイクル対象物を7種類11品目と定め、平成14年4月から、全品目の実施に先駆けて3種類6品目（缶・ビン・ペットボトルなど）の分別収集を実施してきました。

こうした状況の中で、宮古地区広域行政組合では、国で定めた「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）」に基づき、平成19年6月に、平成24年度を目標年次とした第五期分別収集計画を策定しました。この計画では、残

る容器包装廃棄物5品目（飲料用紙パック・段ボール・白色トレイ・その他の紙・その他のプラスチック）の分別収集を実施するため、平成20年度にリサイクル施設を整備し、平成21年4月の実施を予定していますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

一般会計に1923万円を追加

障害者自立支援給付費など

一般会計に1923万円を追加するなど、19年度の補正予算7件が提案され審議の結果すべて原案のとおり可決されました。今回の一般会計の補正は、事務事業や補助金などの確定に伴う増減、公有財産土地売却による増、財政調整基金繰入金金の減額などが骨子で、補正予算と質疑の内容は次のとおりです。

一般会計補正予算

▽民生費国庫負担金
1074万円の増

▽土木費国庫負担金（まちづくり交付金）
950万円の減

▽財産収入（大沢地区土地売却収入など）
1936万円の増

▽財政調整基金繰入金
671万円の減

▽障害者福祉費（障害者自立支援給付費など）
2480万円の増

▽下水道総務費（漁業集落排水処理事業繰出金など）
1828万円の減

▽教育費（自動体外式除細動器購入費など）
1414万円の増

〈別表1〉リサイクル施設整備に係る負担割合

区分	負担割合(%)
宮古市	64.99
山田町	17.36
岩泉町	9.62
田野畑村	4.86
川井村	3.17
計	100.00